

9. アヒル腎臓におけるアミロイド沈着と尿酸塩沈着

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
巻/号	431
掲載ページ	p. 22
発行年月	2007年5月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



鳥病カラーシリーズ

9. アヒル腎臓におけるアミロイド沈着と尿酸塩沈着 (Renal amyloidosis and gout in duck)

キーワード：アヒル，アミロイド沈着，痛風

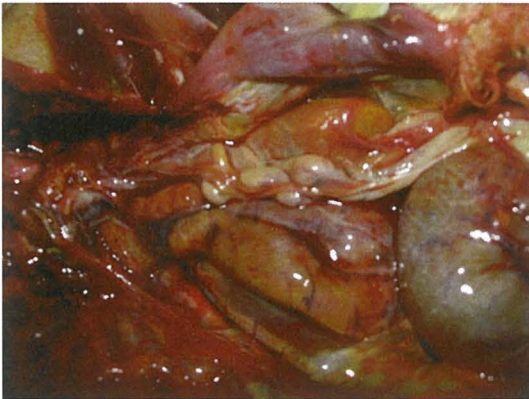


写真 1. 腎臓は黄色に腫大していた。

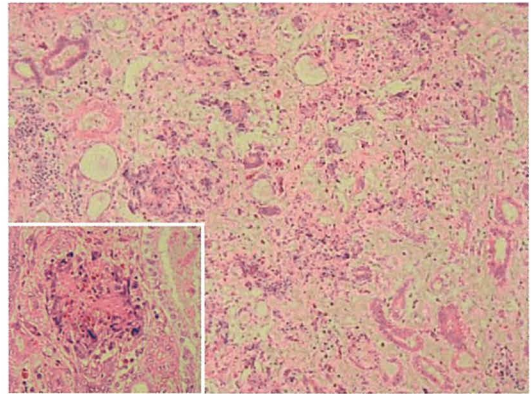


写真 2. 腎臓間質は広範に線維性のアミロイドが沈着していた。変性・壊死した尿細管腔内には尿酸塩沈着がみられ偽好酸球や異物巨細胞の浸潤を伴っていた。挿入図：痛風結節

動物：アヒル，性別不明，年齢不詳

発生状況および症状：観賞用として6年以上飼育されていたが，約半年前から跛行がみられ，時折仰向けになると起きあがることができなかった。死亡する2～3日前からは飼料摂取量が減少していた。同居していた他のアヒルに異常はみられなかった。

肉眼所見：心膜や肝被膜にフィブリン様あるいはチーズ様の白色～黄白色物の付着がみられた。筋肉および肝臓に小白斑がみられ，腎臓は黄変し腫大していた（写真1）。

組織所見：腎臓の間質では広範な線維様のアミロイドが沈着していた（写真2）。尿細管や集合管等は拡張し，管腔内に好酸性滴状物が貯留するものが散見された。上皮では腫大，空胞化等の変性や壊死がみられた。このほか，間質にはリンパ球，形質細胞，マクロファージ等の炎症細胞が浸潤し，水腫状を呈していた。崩壊した尿細管等に多数の好酸性針状結晶物の沈着が認められた。結晶物の周囲には偽好酸球，マクロファージ，異物巨細胞等が浸潤し，痛風結節を形成していた（写真2挿入図）。動脈

壁や間質の一部（とくに腎臓皮質の間質）には弱好酸性の無定形構造物が沈着し，コンゴレッド染色によりアミロイドであることが確認された。さらに過マンガン酸カリウム前処理を行ったところ，コンゴレッド染色の染色性が消失したことから，アミロイドAに対する免疫染色でも陽性を示したことから，沈着物質はアミロイドAであることが判明した。なお，肝臓でもアミロイドの沈着が顕著に認められた。

解説：水禽類では趾瘤症を伴った全身性アミロイド症が報告されており，本症例でも剖検時，趾瘤症が確認されていた。水禽類は脚に創傷を負いやすく，そこから感染し，それが持続することによりアミロイド症を発症すると考えられている。腎臓ではアミロイド沈着の他，多数の尿酸塩沈着がみられた。腎臓間質はアミロイド沈着が著しく，尿酸塩沈着は腎臓障害により生じたものと考えられた。アミロイド沈着が生じた原因については不明であった。